

科学の楽しさや面白さ

3年生の磁石の学習を参観したときの事です。磁石を一つ持ち、身の回りのものをくっつけて遊ぶ体験から単元が始まりました。「あれ？磁石にくっつくものとくっつかないものがあるよ」「磁石同士でも、くっつかなくて逃げてしまうものがあるよ。どうして？」という子供たちの声が聞こえてきます。子供たちの不思議は、「どんなものが磁石につくのか」「磁石にはどんな性質があるのか」という切実感のある学習課題へとつながっていきました。子供たちの様子を見ながら、「あれ？どうしてなのかな？」と一緒に子供と考える教師の姿勢をすてきだなと感じたことを思い出しました。単元の導入で、目で見えた事象を自分たちで興味・関心をもって考え、一人一人が問題を見い出すことからスタートするのが理科の魅力の一つであると感じています。だからこそ、初めの出会いの場が大切になります。また、子供たちが夏休みの課題として取り組んだ発明くふう作品には、理科で学んだことを生かした作品も見られ、子供たちの生活体験が豊かになることも理科を学ぶ意義になっています。

さて、「青少年のための科学の祭典」は、子供たちにとって科学に触れる出会いの場です。毎年、小中高大の先生方や企業、一般の方々が知恵を絞って開発された実験や観察、ものづくりブースが多数出展され、まさしく「祭典」と呼ぶにふさわしい体験型のイベントになっています。今年度は30回目を迎えることとなり、スタッフの皆様方のこれまで継続してこられたご努力と科学好きな子供たちを増やしたいという熱い思いに頭が下がります。本当にありがとうございます。観察や実験等の楽しさや面白さはもちろんのこと、各ブースでのスタッフの皆様方との触れ合いも、子供たちにとって心に残る楽しみな一つになっているにちがいません。

今年度は、黒部市吉田科学館が会場となります。本校の校区内に位置することから、理科や総合的な学習の時間における子供たちの探求活動の拠点となっています。施設の中央にあるプラネタリウムドームでは、美しい星空や立山黒部ジオパークを体験する映画等が視聴できます。常設展示では、黒部の自然をテーマにした展示や科学現象を体験しながら学べる手作り科学実験コーナー等があり、子供たちの科学への興味・関心が高まります。吉田科学館は、子供たちにとって心がわくわくする自慢の場所です。

多くの子供たちが吉田科学館に集い、たくさんの不思議や驚きに出会い、科学の楽しさや面白さを感じてくれることを願っています。

「'23 青少年のための科学の祭典」黒部大会・
第30回「おもしろ科学実験 in 富山」実行委員会
実行委員長 大坂 由喜子(黒部市立村椿小学校 校長)